

# 卒業おめでとう! 数多の試練を乗り越えて 晴れの門出は笑顔が満開



3年生 集合写真



箱根駅伝を走ったOBが来校



自然科学部 芸術文化祭賞

特集... Special edition

- 2年生修学旅行in沖縄／箱根駅伝でのOBの活躍
- 自然科学部・ホッケー部・弓道部の活躍
- わくわくアカデミーKOMA／巨摩フェスタ2026



～地元の小中学生・保護者とのあったか交流～  
**わくわくアカデミーKOMA**

1月24日(土)午前、近隣の小中学生を本校に招き、恒例の「わくわくアカデミーKOMA」を開催しました。理科創造コースの1・2年生と人文クラスの2年生が準備を重ね、当日は理科・数学・情報・国語・社会・英語・体育の11のブースに分かれて実験やクイズを行い、和やかなひとときを過ごしました。



**巨摩フェスタ2026**

1月24日(土)午後、文化局・委員会の日頃の活動の成果を披露する巨摩フェスタ2026が本校で行われ、進修館ホールや校内各教室で、生徒会本部や吹奏楽・箏曲・音楽・自然科学部・美術部・写真部・華道・茶道・書道の各部・同好会とユネスコ・ボランティア委員会が発表や演奏、展示を行いました。



同じ空の下にあっても、立つ場所が違えば見える景色は変わります。この事実も、私たちの物の見方や価値観にも通じています。自分には「当然」に見えることが、別の位置からは違って見える。その違いに気づき、相手の視点に耳を傾けるために欠かせないのが対話です。対話は時間と手間がかかりますが、互いの経験や背景を言葉にし、違いを脅威ではなく資源として尊重することで、問題の本質が少しずつ輪郭を帯びてきます。

学校は、生徒や教職員だけで完結する場ではありません。私たちは地域に根ざした学びの共同体の一員として、地域の方々、企業、大学、行政

kouchou sensei kara  
**Hi・To・Ko・To**  
 対話で広がる、  
**学校と地域の未来**  
 校長 武藤 一輝



この若者が生き生きとした社会は、気候変動や地域課題、価値観の違いなど、「答えのない問い」に満ちています。こうした課題は、一人や一つの組織だけでは解決できません。多様な人々とつながり、話し合い、共に考える力が求められています。

授業や部活動、学校行事、そして地域との関わりの中で培われる対話の経験は、未来を生き抜く力となります。景色は立つ位置で変わります。だからこそ私たちは歩み寄り、語り合い、共に見る世界を広げていきたい。学校から地域へ、地域から社会へとつながる対話を大切にしながら、未来を切り拓いていきたいと思います。

No.046  
**巨摩高 百景**

写真部 2年1組  
 中込 和奏 (桐形中学校出身)

**「ホッケーコート」**  
 グラウンドの西南にあるホッケーコート。ここでは、放課後になるとホッケー部の掛け声とスティックの音が響きます。夏の強い日差しが照りつける日も、八ヶ岳おろしの強い日も、部員同士で声を掛け合いながら練習をしています。この場所で練習を積み重ね、その努力が全国大会へとつながっているのです。

巨摩高だより  
**KOMA**style VOL.78

- 発行...山梨県立巨摩高等学校 〒400-0306 山梨県南アルプス市小笠原1500-2 TEL.055-282-1163 FAX.055-282-1104
- 発行日...令和8年2月17日
- 編集...山梨県立巨摩高等学校 総務・広報部
- 撮影協力...山梨県立巨摩高等学校 写真部

巨摩高校のコト、もっと知りたかったら、ホームページにアクセス!!  
 巨摩高校 検索 URL...http://www.ko.kai.ed.jp/ E-mail...info@ko.kai.ed.jp

この印刷物は再生可能電力 (CO2排出ゼロ電力) で印刷されています。

# 修学旅行in 沖縄

11月9日(日)～12日(水) 3泊4日



## 「学びと発見とかけがえない思い出と」

修学旅行委員会委員長  
遠藤 羽純(若草中学校出身)

今回の沖縄への修学旅行では、日ごとにたくさんの学びと発見がありました。1日目は平和祈念公園やひめゆりの塔を訪れ、想像以上に過酷だった戦争の現実を知り、平和の大切さを改めて実感しました。2日目のタクシー班の行動では、運転手の方との会話を通して沖縄の暮らしや文化にふれることができました。3日目はクラス別行動や国際通りで仲間との時間を楽しみ、絆を深めました。天候に左右される場面もありましたが、それ以上に充実し、思い出に残る修学旅行になりました。



## 「琉球文化と人の温かさに触れて」

修学旅行委員会副委員長  
大久保 嬉音(敷島中学校出身)

初めて行った沖縄への修学旅行では、それまで馴染みのなかった琉球文化を身近に感じることができました。特に印象に残っているのは、タクシーでの班別行動で運転手さんと一緒にシーサーがある家を探したことです。屋根や門の上など、家ごとに表情の違うシーサーを見つけるたびに会話が弾み、地域に根付いた守り神の存在を実感しました。観光だけでなく、人とのふれあいを通して沖縄の温かさを感じる4日間となりました。



## 体育局の大会報告



優勝を経験して

2年4組 望月 玲衣 (甲西中学校出身)

私たちは10月18日から19日にかけて行われた山梨県高等学校弓道新人大会に女子団体が出場しました。最初の予選では、36本中24本をメンバーの皆で的中させることができ、一位で通過しました。次の決勝リーグでは、予選を突破したチームとの総当たり戦となり、身体的にも精神的にも辛くなる中、一射一射丁寧に競技し、優勝決定戦へと進みました。優勝をかけた最後の戦いは緊張が高まる中でもチームで力を合わせ、優勝を掴み取ることができました。私はこの大会で勝ち進んでいくにつれて喜びやプレッシャーなどの様々な体験をしました。こうした体験は簡単にできることではないと思うので大切にしていきたいです。そして、日々支えてくれている仲間や先生方、家族に感謝の気持ちを忘れず、これからも良い結果を報告できるように毎日の練習に励んでいきたいです。

### 県新人大会

- 女子団体優勝  
望月 玲衣・小松 莉奈・鈴木 莉帆
- 女子個人5位 小松 莉奈
- 関東選抜大会 女子団体出場  
女子個人3位 小松 莉奈
- 全国選抜大会 女子団体出場
- 東日本高等学校弓道大会  
女子団体出場



小松 莉奈  
関東大会 3位入賞

3年1組 永沢 瑠杏 (白根御勅使中学校出身)

最後の1年を振り返ると、強く心に残っているのは悔しさです。日々の練習を積み重ね、実力は確実についてきていると感じていました。しかし、試合になるとあと一歩のところまで勝ち切ることができず、自分たちの弱さと向き合う場面が何度もありました。この経験はチームにとって大きな課題を残したと思います。特に最後の大会では、体調不良者が出てしまい、全員が万全な状態で試合に臨むことができませんでした。自分たちの力を出し切りたかった分、その悔しさはより一層強く感じました。同時に、日頃の準備やコンディション管理も実力の一部であることを痛感しました。この1年を通して学んだことは、結果は決して偶然ではなく、毎日の練習や意識の積み重ねの先にあるということです。後輩には、練習の一つ一つを大切に、つらい時でも手を抜かず、最初から最後まで全力でやり切ってほしいと思います。その積み重ねが自信となり、必ず結果につながるはずですよ。

### 全国選抜大会出場

最後の1年

ホッケー部



## 文化局の大会報告



2年5組 齊藤 有紀 (櫛形中学校出身)

今年度、私たち自然科学部は芸術文化祭賞をはじめ、数々の賞を受賞することができました。私たちは伊奈ヶ湖の自然をテーマに研究をしています。その結果、伊奈ヶ湖に生息するアメリカザリガニがカエルの生息数に影響を及ぼし、カエルの増減が草原のバッタの生息数に影響を与えているという「間接効果」を明らかにしました。また、バッタがどのように草原を見分けているのかについても研究し、バッタが草などで生じる明暗のある場所を好むことを実験で証明しました。実際に伊奈ヶ湖へフィールドワークに行き、バッタをたくさん捕まえるのは大変だったけれど、みんなで一緒に野山を駆け回ることができて楽しかったです。そして何よりも、伊奈ヶ湖の湖畔で部員のみんなや先生と雑談をして過ごした時間が一番思い出深いです。今回の研究を通して、今後の展望や課題が見えてきたので、次の研究に生かしたいと思います。

- 生徒の自然科学研究発表大会 芸術文化祭賞
- 山梨科学アカデミー賞
- 大村智自然科学賞
- 日本学生科学賞 山梨県審査 県知事賞

受賞して

自然科学部

## 陸上競技部OBの選手2名が2年連続!! 箱根駅伝で快走! 3学期始業式で後輩にエールを送ってくれました!

1月2、3日の箱根駅伝を走った卒業生の市川大世さん(中央学院大学3年・往路2区)と内堀勇さん(東洋大学2年・復路6区)の2人が、1月7日に本校を訪れ、3学期の始業式で後輩たちにエールを送ってくれました。また放課後には陸上部の1～3年生が憧れの先輩を囲んで話を聞くことができました。巨摩高生と卒業生は2人の活躍を誇りに思い、沢山の勇気をもらいました。



弓道部